※受付番号

百年記念会館
GLORY Collaboration Hub

毎日夕暮れには、仕事帰りの社員が気分転換に集まってくる

１つ屋根の下で“求める心とみんなの力”を育む

通貨処理機事業のパイオニアにして独自の「見分けるチカラ」を活かし新規市場開拓に取組むグローリー社の研修施設老朽化に伴う建替え計画である。
私たちは、予定される研修以外の機会にも社員の居場所となり、新しい営みや催しが自発的に行われる環境を築く目的で、隣接する鬘櫛山の豊かな自然を活かし、記憶に残りやすい外観と非日常的で大らかな内部空間を併せ持つ建築を提案した。深い軒を持つ大屋根は、人々を迎え入れ包みながら、風や光を取り込んで外部のような環境を形成し、風雨から建屋を守る。研修室ボリュームによる見え隠れのあるワンルームの空間では、多様な居場所とアクティビティが連鎖し、自社の原点に立ち返る様々な機会が提供される。100 年記念事業の一環として同社の企業理念を具現化した会館が、立場や分野を超えて新たな価値を生み出す人材が育つ場となる。

百年記念会館建設前後の風景

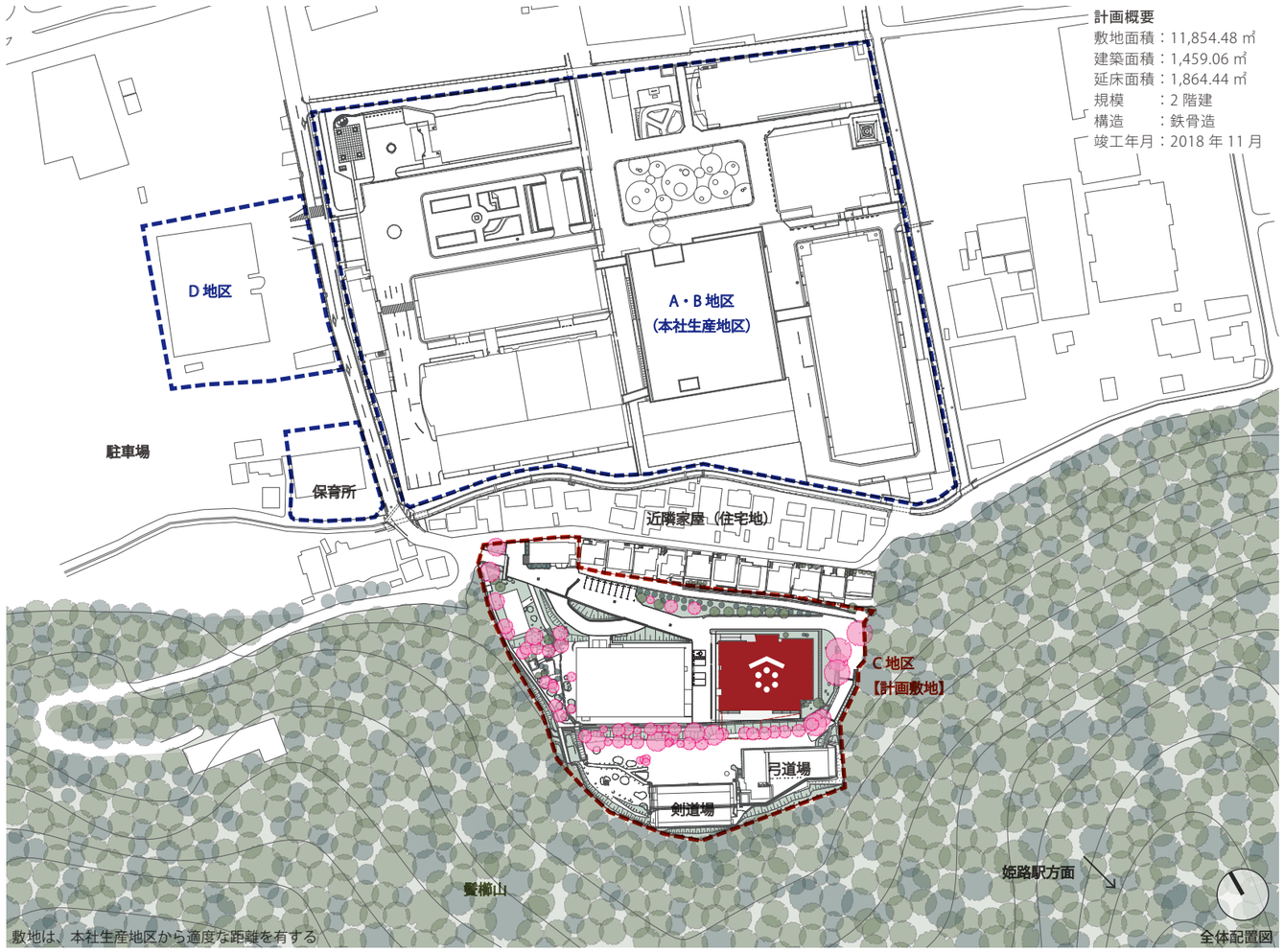
建設前

建設後

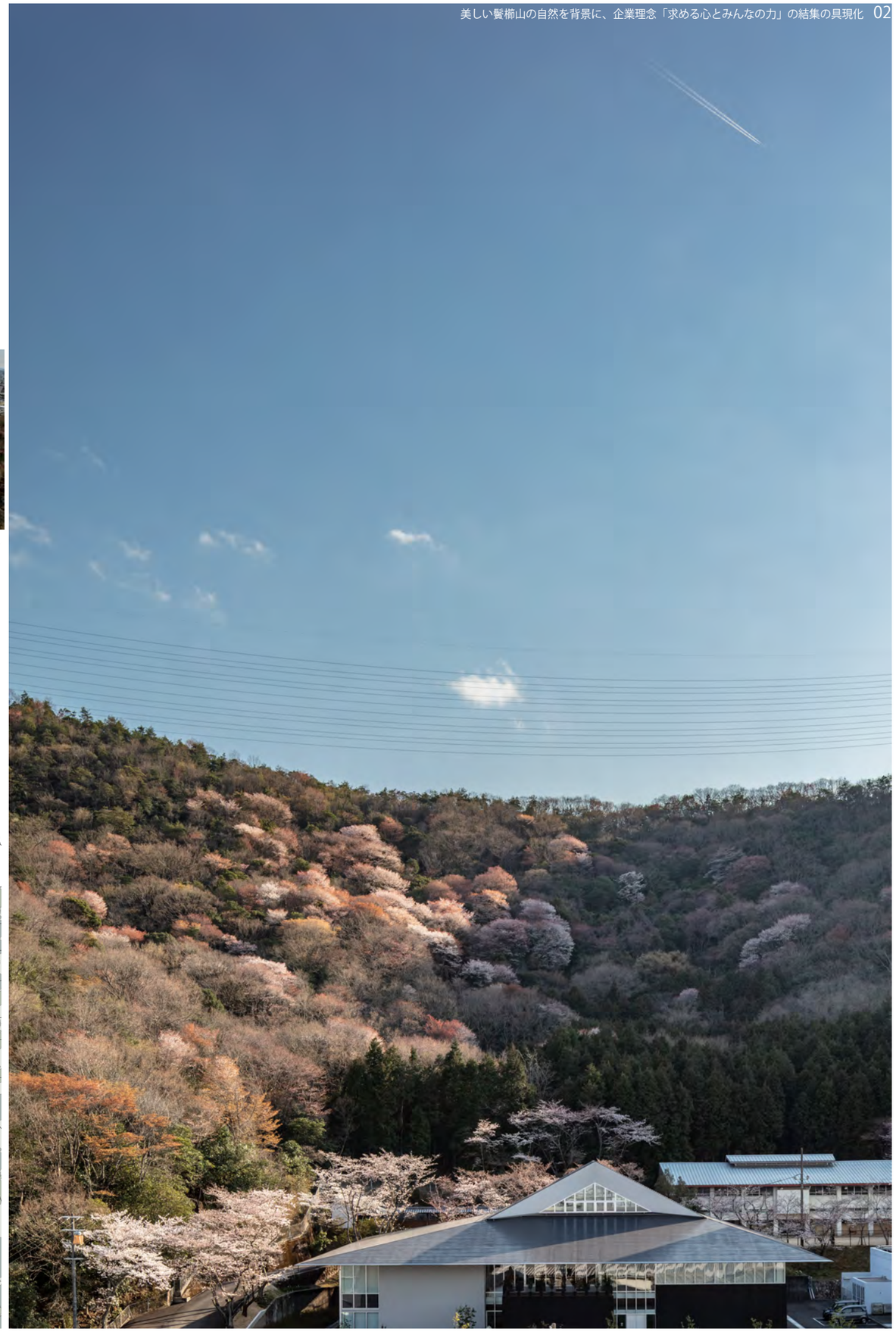
建物中景

A・B 地区建物屋上からの景色

南側の鬘櫛山上部からの景色



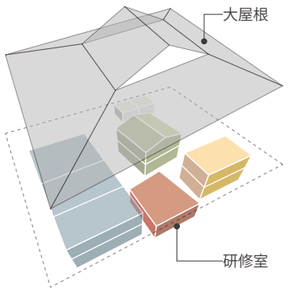
敷地は、本社生産地区から適度な距離を有する
全体配置図



焼杉とガルバリウム鋼板（+ALC）による多様なボリュームに様々な活動が重なる

1. 集まって学ぶ建築
～大屋根が四方から人を集め 印象深い外観を形成する

次世代の人を育てる施設は、昔寺がその役割を果たしたように、より日常的に使われ、本社地区における新しい学びのシンボルとしてある種の記念性 / 祝祭性を持つべきであると考えた。
鬢櫛山を背景に１つ屋根の下に人が集まる光景をイメージしながら、遠くから、そして四方から人を迎え入れる深い軒をもつ低層のボリューム計画とした。



concept diagram
活動を映し出す多様なボリュームを大屋根の下に集積

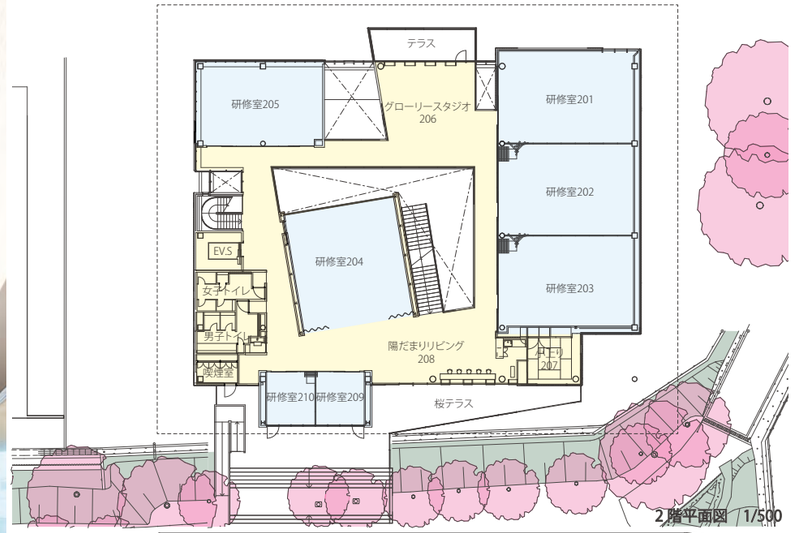
遠くから、四方から人を迎え入れる大屋根

剣道場方面からのアプローチとなるテラス

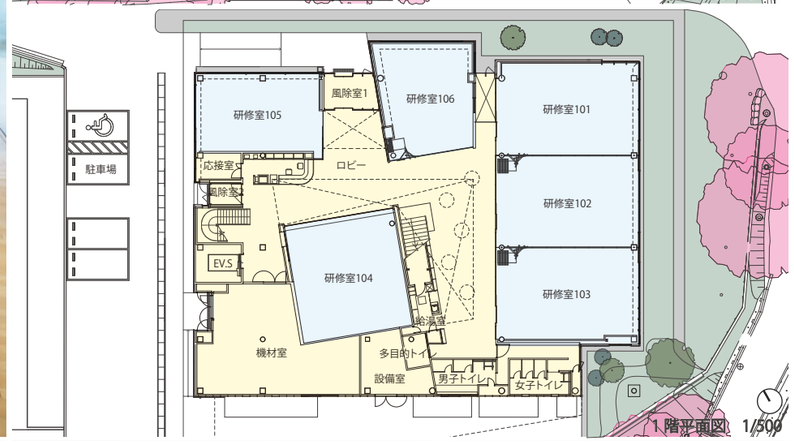
2. 共感を生みクリエイティビティを刺激する空間
～一体的で見えがくれのある空間が緩やかな連帯感と居心地を両立する

大屋根下には周辺環境と関わりながらも自己完結的なワンルームが形成される。
そこには、定められたプログラムに対応しながらも自発的で新しい営みを誘発する多様な研修室ボリュームとその間のオープンスペースが設けられている。

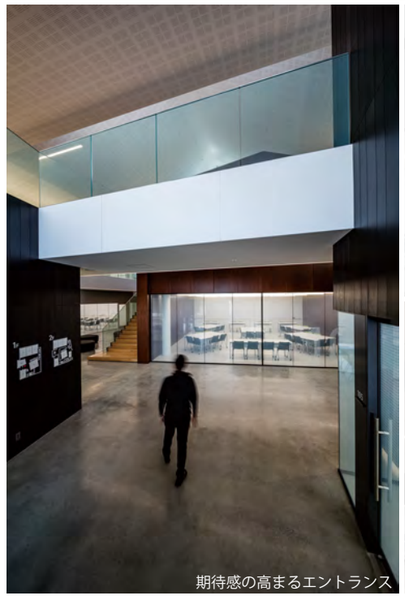
入れ子状の家形ボリュームと２つの軸によって広がりと奥行きを与える



2階平面図　1/500



1階平面図　1/500


期待感の高まるエントランス

研修室とオープンスペースにゆるやかな関係性を持たせる

研修室ボリュームによる見え隠れをつくり居心地を高める

オープンスペースと縦動線の配置により回遊性を高める

空間の一体感とアクティビティのつながりを高める照明計画

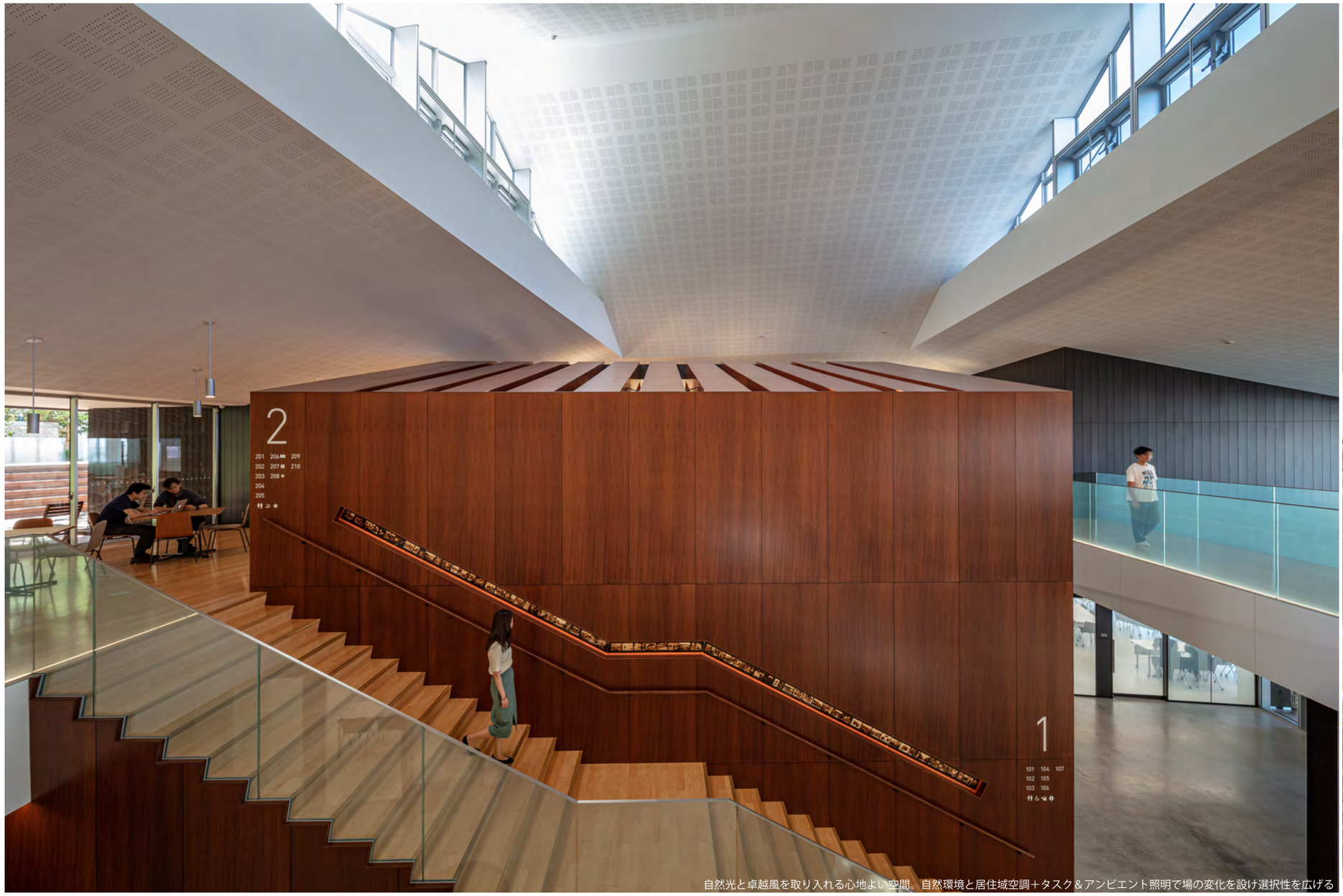
オープンな職員ステーション（受付カウンター）

緩やかな連帯感のあるワンルーム空間

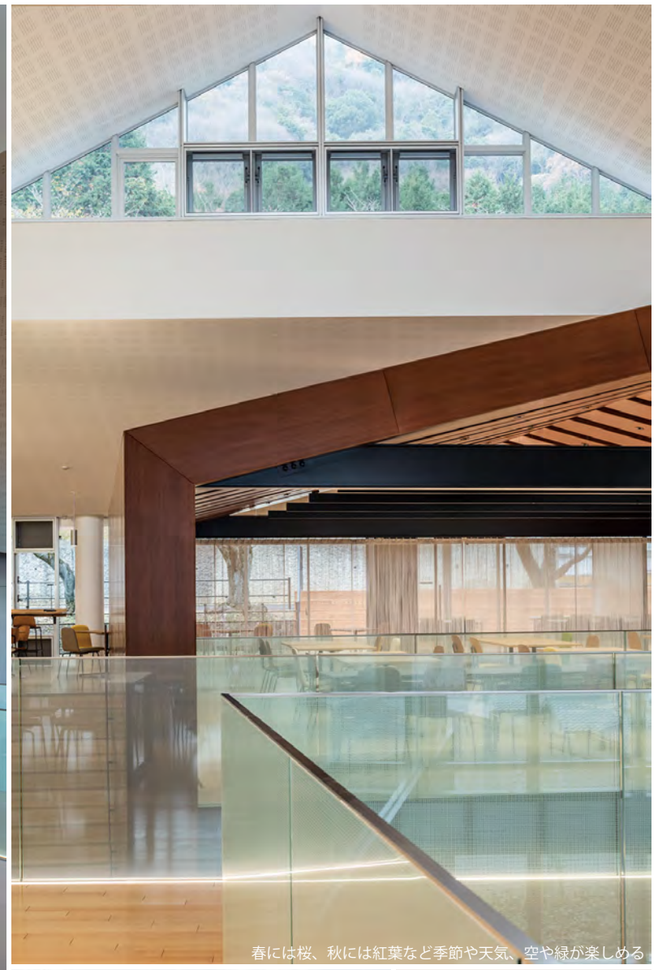
どこにいても館内の様子が窺い知れる平断面構成

3. 大屋根を活かしたサスティナビリティ
～鬢櫛山の豊かな自然を活かして半屋外のような環境を形成する

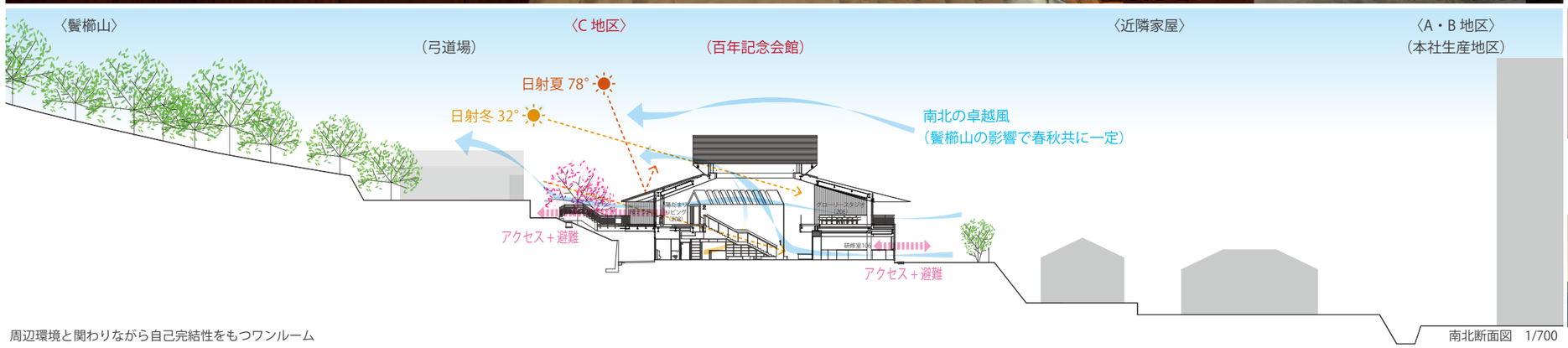
長時間滞在して作業する研修室をある程度機械的にコントロールされた環境とし、大屋根下の大空間では鬢櫛山の自然を取り込んだゆるい微気候を形成する全体構成とした。
共用部では、錣屋根の南北に設けられたハイサイドライトにより卓越風を活かした風力換気を行い、中間期には空調をほとんど使用せず心地よい風を感じながら過ごせる環境を実現している。



自然光と卓越風を取り入れる心地よい空間。自然環境と居住域空調＋タスク＆アンビエント照明で場の変化を設け選択性を広げる

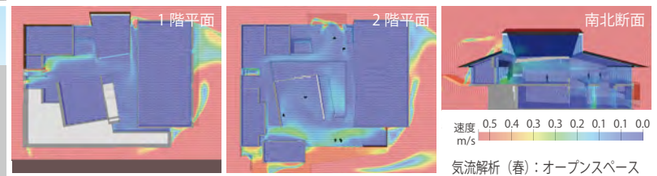

春には桜、秋には紅葉など季節や天気、空や緑が楽しめる

深い軒で風雨や直射光から建屋を守りながら自然環境を取り込む



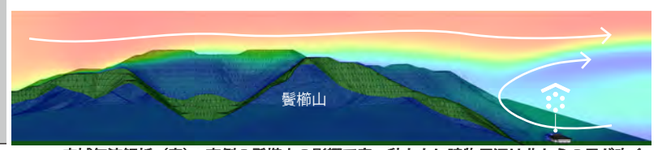
周辺環境と関わりながら自己完結性をもつワンルーム

南北断面図　1/700



一般的に、SET*22.5℃～ 24.0℃が快適と感じる範囲とされているが、共用部の光環境を屋外環境に近づけることで、閾値を SET*18~30℃に広げ、空調負荷低減を図る

気流解析（春）：オープンスペース全体に心地よい風が流れる



広域気流解析（春）：南側の鬢櫛山の影響で春・秋ともに建物周辺は北からの風が吹く

4. 原点を振り返る設え
～シンボルマークと数字のみのサインで企業理念に立ち返る機会を促す

会館は、社員が企業理念体系を再確認し自社を見つめ直す契機となることを目指して計画された。記憶に残りやすい家形の建築とシンクロするシンボルマークが様々な場面に広がり、１つ屋根の下で〝求める心とみんなの力〟を育む建築と響き合う。また通貨を数えることから始まったグローリーにとって特別な意味をもつ数字を用いたサインデザインや 100 年の歴史を振り返るギャラリーが、社員の感性＝〝見分けるチカラ〟を刺激し、未来を切り開く人を育てる。

百年記念会館
GLORY Collaboration Hub

グローリーの企業理念
「求める心とみんなの力」
を表現したシンボルマーク

シンボルマーク
大屋根の下に
多くの人が集まる姿を表現

６つの●の意味
６つの部門
６つのステークホルダー

夜間も印象的な光景を生む

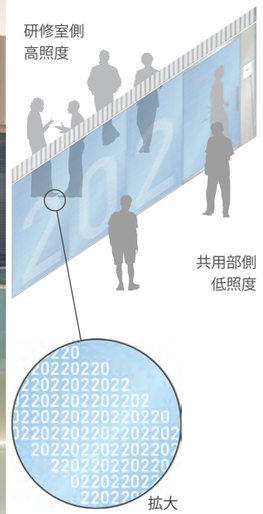
シンボルマークの
様々な展開

円周率を添った衝突防止とエントランスのシンボルマーク

数字が、自然や活動が連鎖する空間に重なる

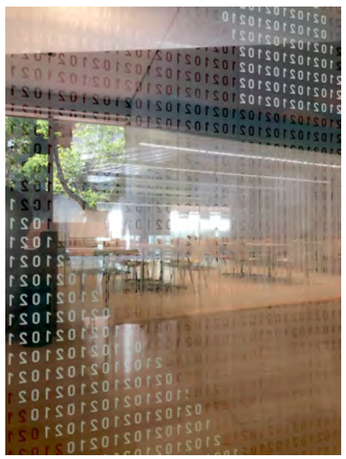
数字グラフィックシートによる視線制御

数字の重なりが空間に奥行きを与える



共用部側の照度が研修室側よりも低いため、原点としての数字を意識させるグラフィックシートを介して、研修室の活動はクリアに見通せ、研修室から室外への視線は適度に和らげられる。
研修室の照明が消えているときにはグラフィックシートの室名数字が浮かび上がり、一目で自分の使う研修室を知ることができる。

共用部側からは研修の活動がクリアに見通せる

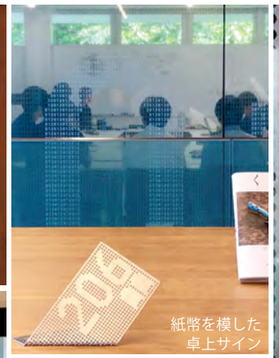

研修室からは共用部が気にならず研修に集中できる

ワンルーム空間の中に散りばめられた様々な気づきのきっかけ

床面に照射される時間とサイン、写真ギャラリー

階段に設けた過去 100 年の
写真ギャラリー

過去 100 年の写真ギャラリー



紙幣を模した
卓上サイン

使い方の固定化を避ける為、
館名以外のサインは数字と記号のみ

歴代のシンボルマークが
グラフィックの中に隠れている

5. 新たな活動が生まれる場
～新たな使い方を利用者自ら実践するきっかけを与える

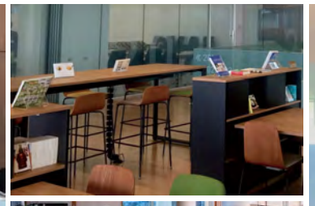
ワンルームの随所に短時間でヒントを得られる幅広い分野の書籍が配されており、用意された研修プログラムの休憩時間や前後のみならず、仕事の後ぶらっと立ち寄ってひと時を過ごす社員が増えている。
使い方を特定しない室や場のみで構成された会館は、研修の場であると同時にライブラリ空間であり、イベント空間であり、オフィス空間であり、ラウンジ空間でもありゲストを迎える空間でもある。
「人」を育てる施設では、多くの気づきや予期せぬ出会いが生まれ、自ら成長するマインドが育まれる仕組みが重要と考える。
ここで得た体験が、一企業の営みを超えて世界の未来を担う人たちの原風景となることを期待する。

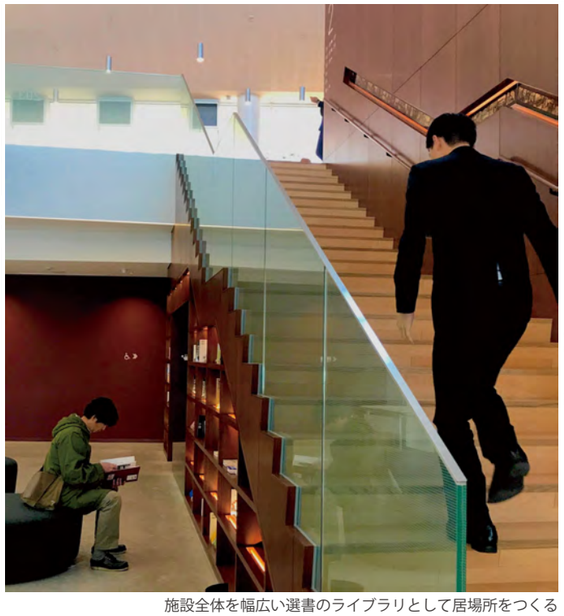
テラスに開放された陽だまりリビングで食後のひと時を過ごす

研修室と共用部の一体利用・観覧席化する階段

職員もオープンスペースで勤務（フラットな関係づくり）

気づきを与える書籍と過去 100 年の写真ギャラリー

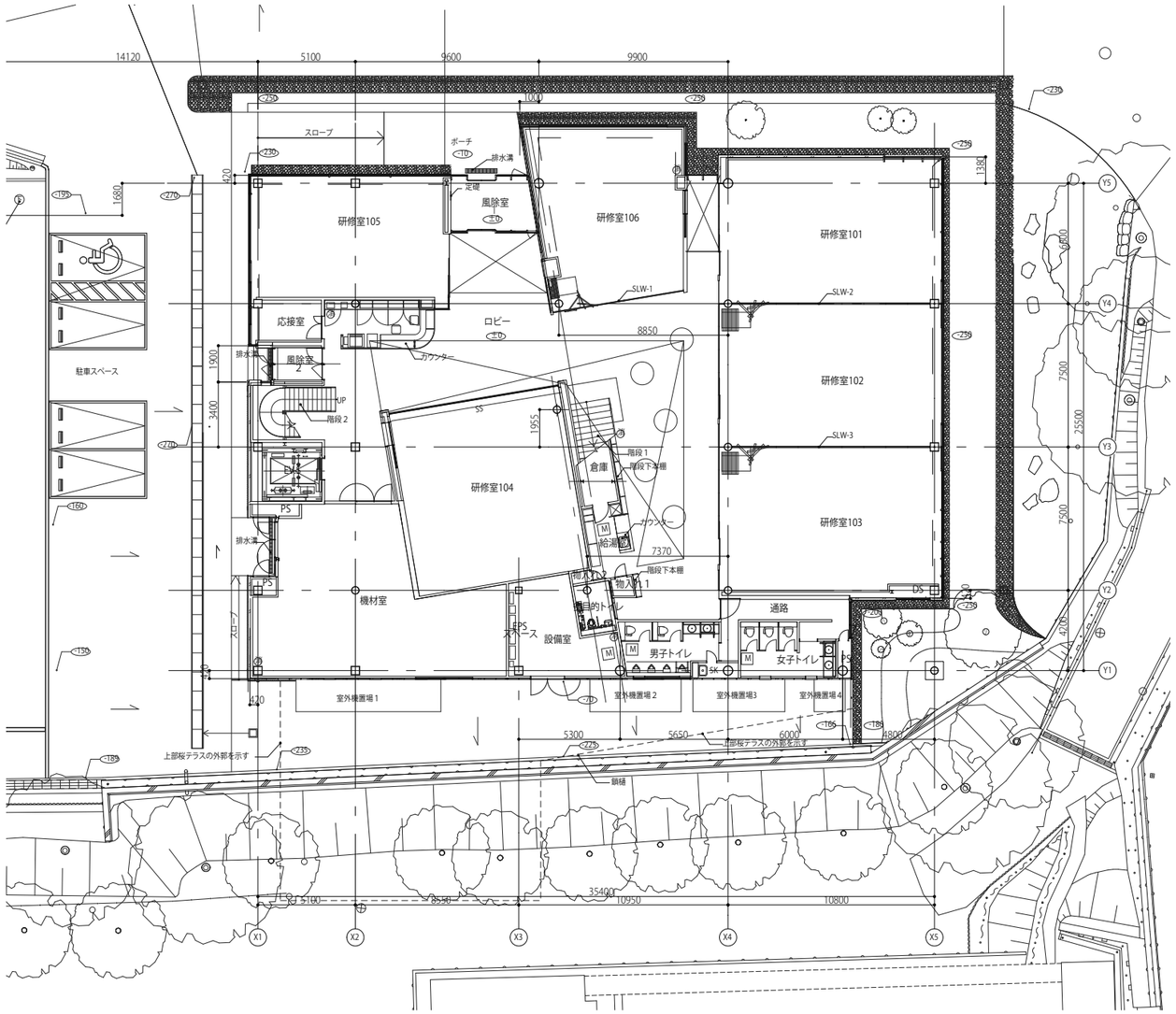



施設全体を幅広い選書のライブラリとして居場所をつくる

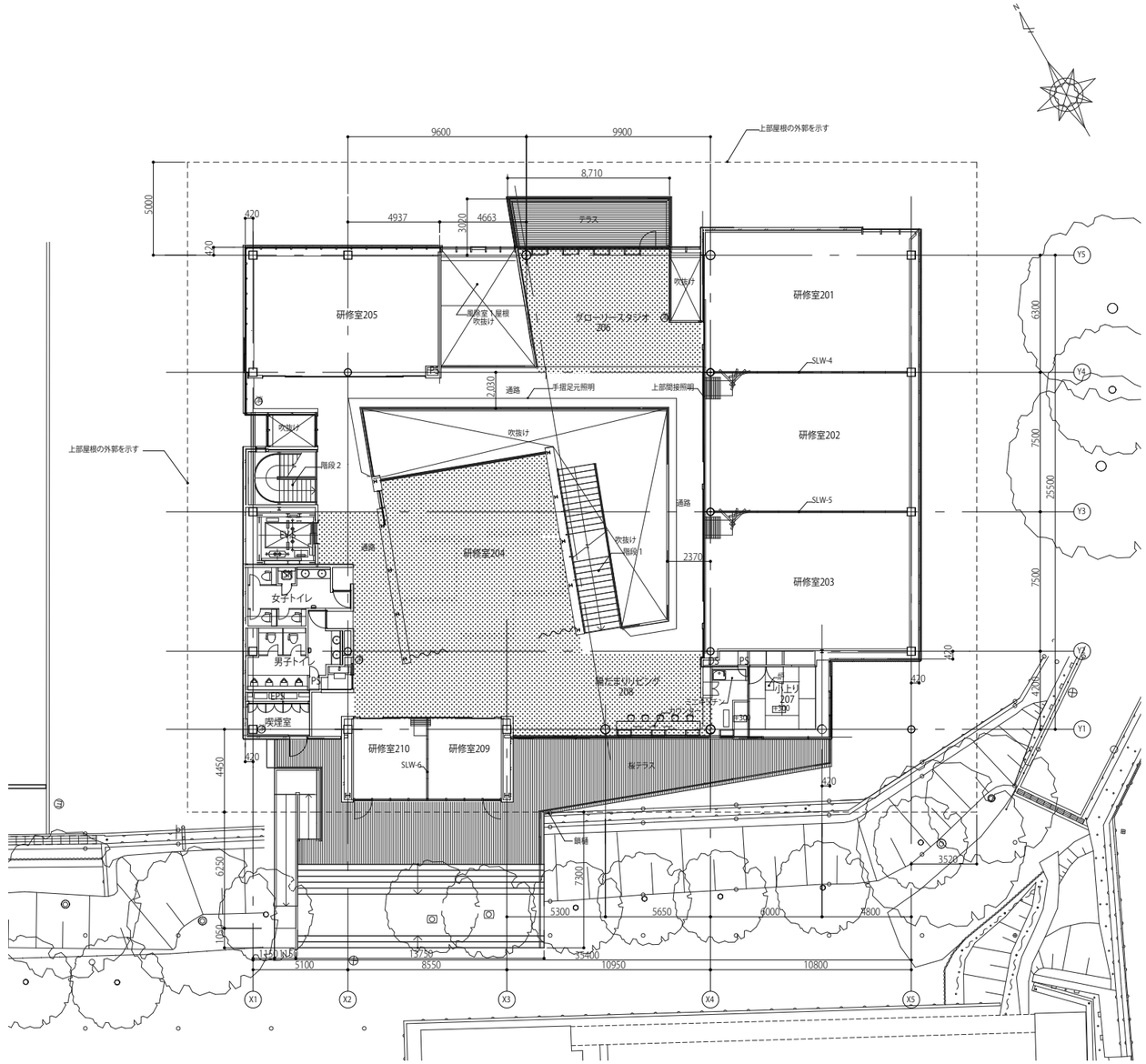
小上りは有志による茶会や来客のもてなしに利用

施設全体を利用してのイベント

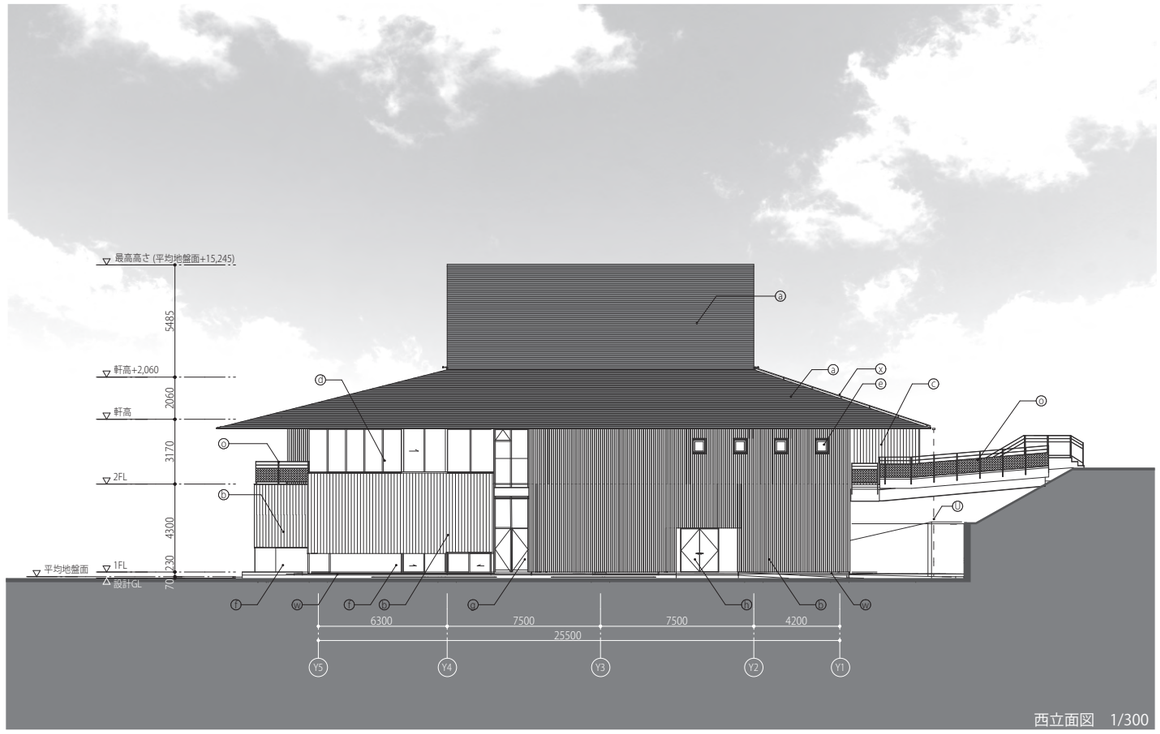
仕事の後にぶらっと立寄れる居場所に（内外一体利用の様子）



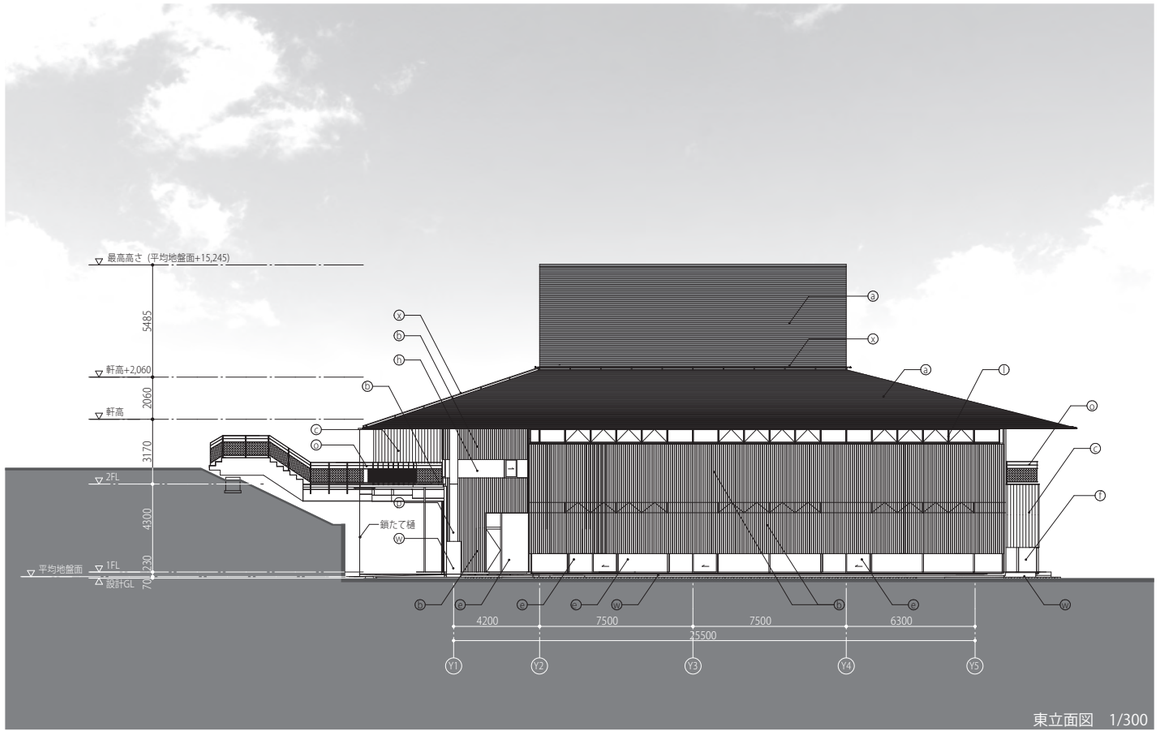
1階平面図　1/300



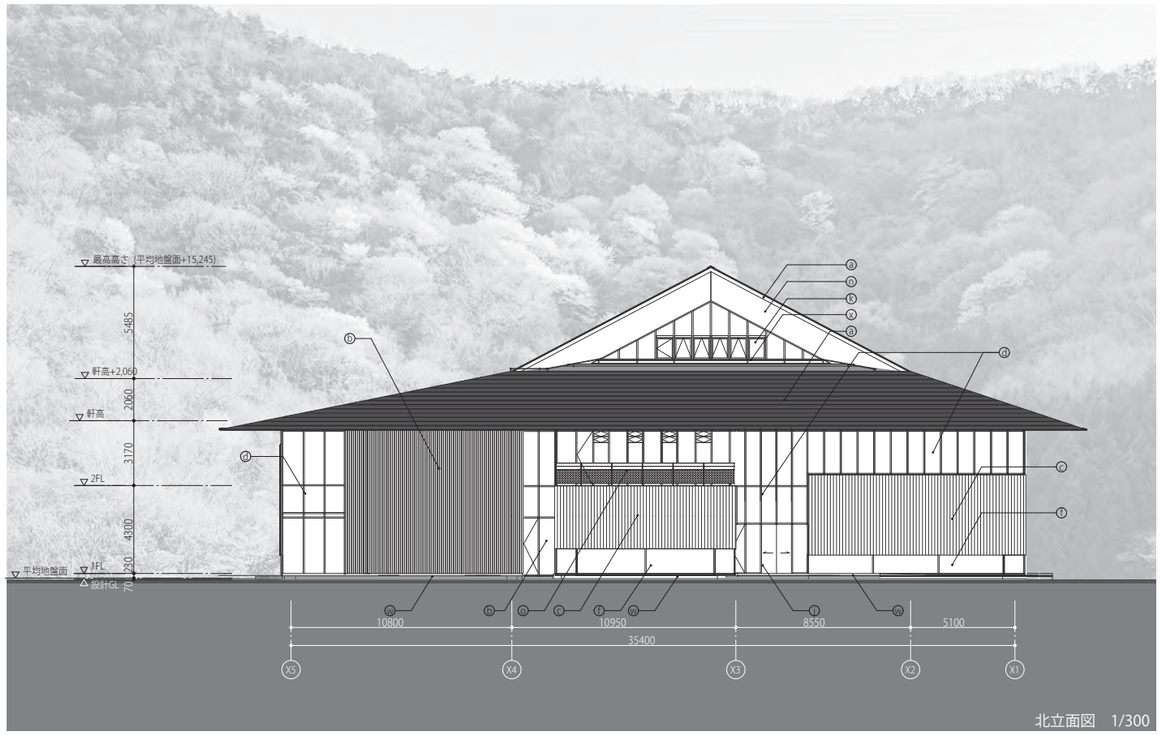
2階平面図　1/300



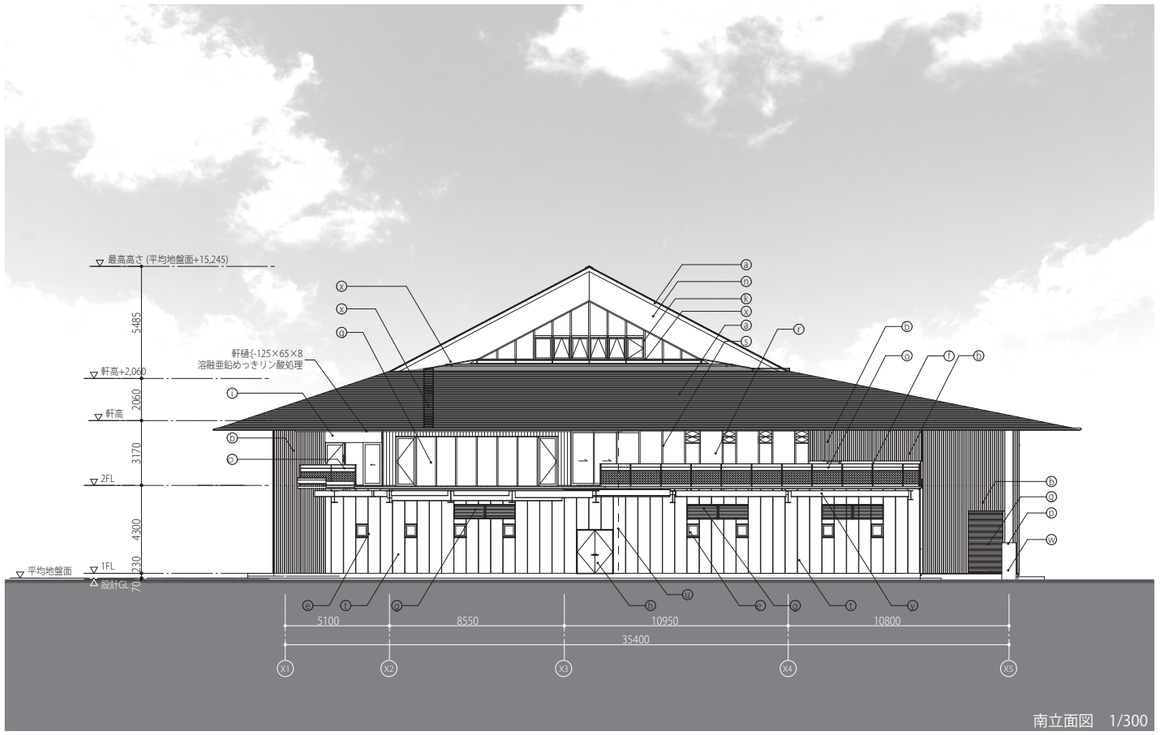
西立面図　1/300



東立面図　1/300



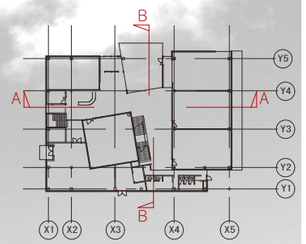
北立面図　1/300



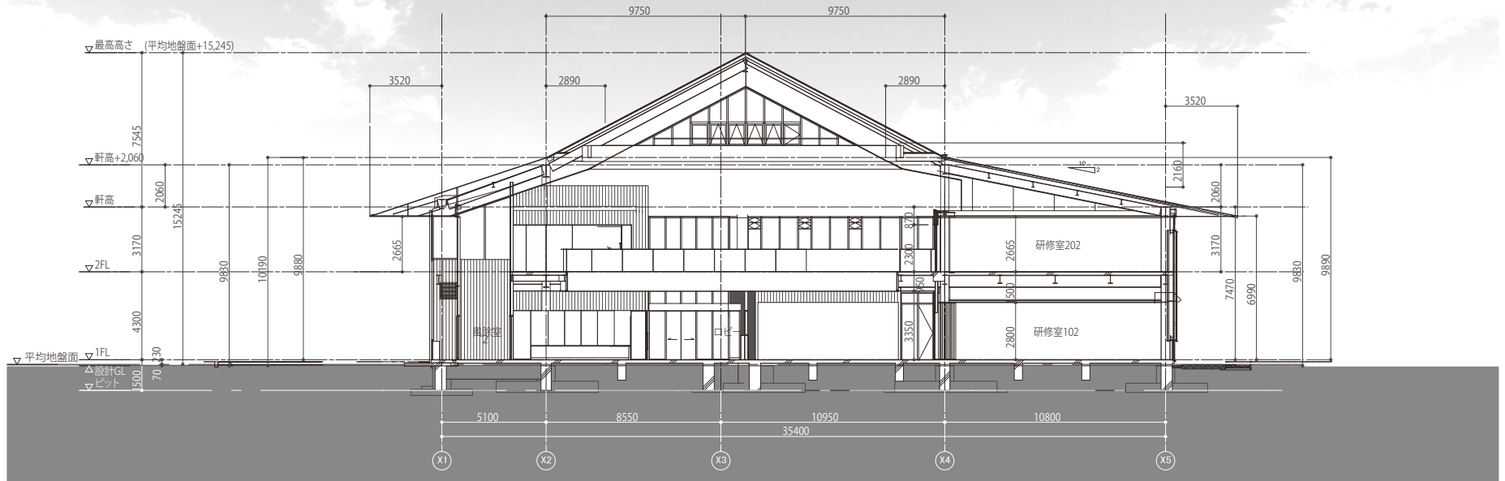
南立面図　1/300

仕上凡例　※東・西・南面のガラスはLow-Eガラスとする。

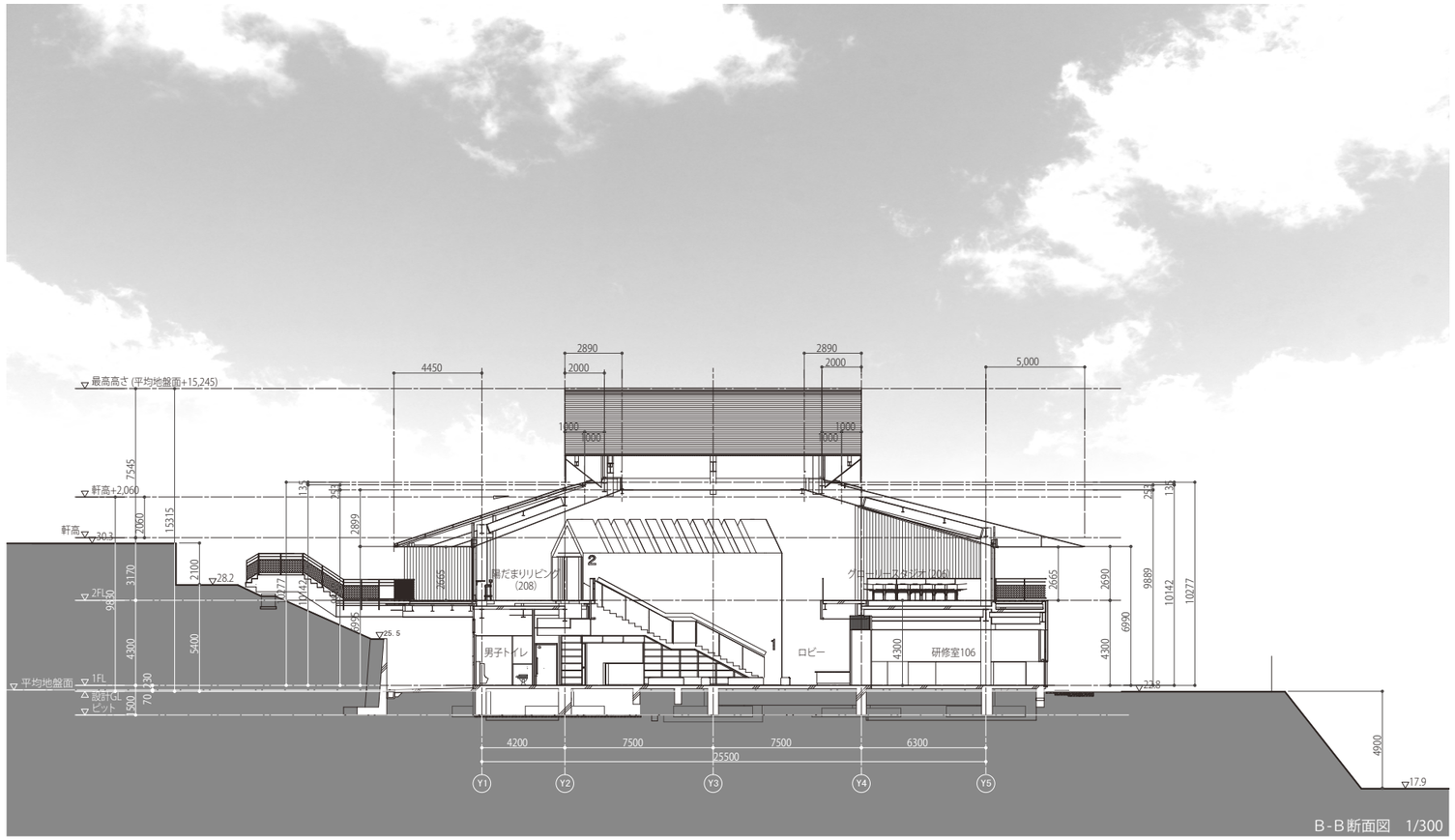
a	フッ素ガルバリウム鋼板一文字葺き	e	アルミ製サッシ複層ガラス	i	アルミパネル	m	アルミ製排煙窓ガルバリウム鋼板仕上	q	アルミ製サッシ扉付き複層ガラス	u	鎖樋
b	ガルバリウム鋼板＋ALC版	f	アルミ製サッシ複層ガラス(縦シール目地)	j	自動ドア	n	アルポリックパネル	r	アルミ製サッシ換気窓付き複層ガラス	w	根回り:RC補修も上、撥水材塗布
c	焼杉張り＋ALC版	g	アルミ製ガラリ	k	バランス式逆流防止窓	o	鋼製手摺:溶融亜鉛めっきの上リン酸処理 パネル部エキスパンドメタル	s	アルミ製片引き戸複層ガラス	x	メンテ用タラップ・メンテ用バー:SUS-HL
d	アルミ製カーテンウォール複層ガラス	h	鋼製建具	l	アルミ製排煙窓複層ガラス	p	鋼管DP	t	押出成形セメント板シリコン樹脂塗装	y	鉄骨溶融亜鉛めっき(一部リン酸処理)



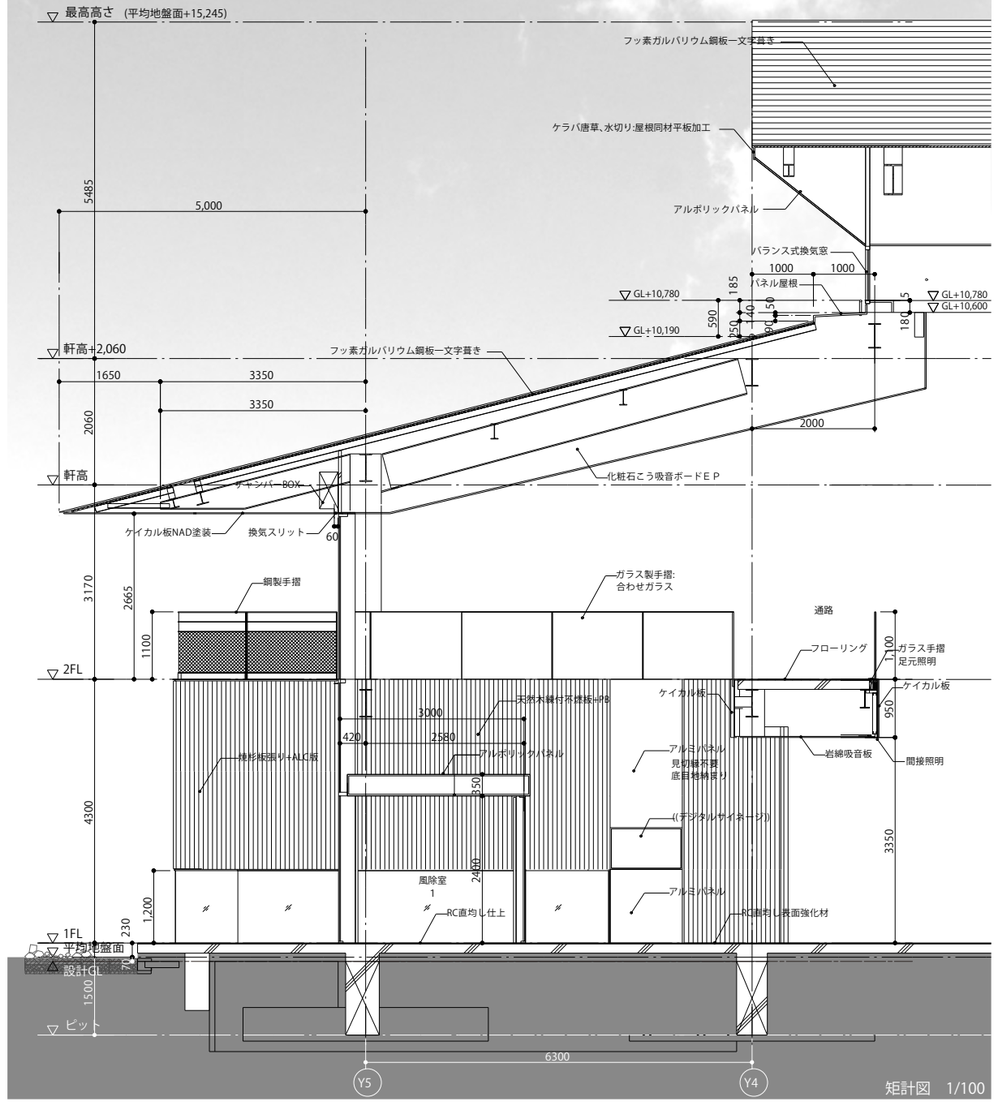
キープラン



A-A断面図　1/300



B-B断面図　1/300



矩計図　1/100